

主査・委員長からのメッセージ

ニューガラスフォーラム創立30周年を迎えて

(一社) ニューガラスフォーラム 専務理事

小林 勝

一般社団法人ニューガラスフォーラムは、2015年7月16日に創立30周年を迎えることができました。1985年7月16日に任意団体として設立され、1987年の社団法人への認可を経て、2014年4月1日に一般社団法人へ移行し現在に至っております。この間、産・官・学の各分野の多くの方々にご支援・ご指導を賜り、こうして30年を迎えることができたことに深く感謝致します。私は、当フォーラムの専務理事に就任してからわずか1年余りではありますが、在職中に30周年の節目を迎えられましたことをたいへんよろこばしく、また光栄に思っております。

ニューガラスフォーラムは1998年に定款の改正を行い、自ら研究開発を行う体制を整えることができました。当フォーラムは、ガラス関係6団体で構成されるガラス産業連合会（GIC）の加盟団体ですが、この意味において、ガラス産業連合会の中でもユニークな活動を展開することができる団体の一つとなっています。従って、現在、会員会社（賛助会員を含む）は約50社ですが、主に大学関係の先生方で構成される約50名の特別会員も構成されており、当フォーラムの諸活動に多大なる貢献を頂いております。

私は、大学ではガラス領域を専攻し、また日本板硝子株式会社が在籍中はガラス技術等との関わりも当然ながら少なからずありました。しかしながら直近の10年間は海外勤務の期間もあって、ニューガラスフォーラムとの関わりはほぼ皆無となりました。当フォーラムに着任後は、多くの企業の方や大学の先生方とお話させて頂く機会がありますが、中には何年ぶりかにお会いできた方もおられます。昔の経験がよみがえり、懐かしい思いをさせて頂いております一方で、経過した長い年月には勝てず、主に技術的な内容の難しさを痛感する今日この頃ではあります。

私のニューガラスフォーラム在籍期間はほんの1年余りですが、今から約15年前に、当フォーラムに関わっていた時期がありました。それは、私が在籍していた日本板硝子株式会社が当団体の会長職を賜っていた際、運営委員会下の「ビジョンワーキンググループ」を担当させて頂いた時期になります。当時は、ニューガラスフォーラム設立後10数年が経

過した頃で、活動の停滞や会員数の漸減等の状況を踏まえて、その時代のニーズに合った活動やフォーラムの事業活性化を図ることを目的として、10社前後の企業会員の方と答申案を策定することが目的でした。このことはほとんど失念していましたが、昨年ニューガラスフォーラムに着任した際に、私がまとめた報告書見る機会があり、懐かしく再会した次第です。改めてその報告書を見てみますと、当時と現在では、その時代背景や環境は大きく異なっているとはいえ、議論されていた内容は、15年が経過した現在のニューガラスフォーラムが有しているいくつかの課題とよく似ていると感じました。

さて、ニューガラスフォーラムの30年の歴史を振り返れば、次のような段階に分類されられるかと思えます。

(1) 第一期（最初の10年）

国際活動（国際シンポジウム，海外調査活動，国際合同研究会等）

標準化事業（標準化・規格化調査，JIS 原案作成等）

調査研究事業（各種技術動向調査活動）

研究会等（いくつかの専門分野研究会を2-4年単位で実施）

諸活動（ニューガラス大学院，若手懇談会，機関誌刊行，ガラスデータベース）

(2) 第二期（次の10年）

国家プロジェクト等の受託開始

ビジョン策定

研究会等（セミナー，ガラス科学技術研究会，評価技術研究会にほぼ集約）

諸活動（ニューガラス大学院，若手懇談会，機関誌刊行，ガラスデータベース）

(3) 第三期（直近の10年）

国家プロジェクトの遂行（技術開発研究事業，先導研究等）

研究会等（継続）

諸活動（ニューガラス大学院，若手懇談会，機関誌刊行，ガラスデータベース）

改めて見れば、ニューガラスフォーラムのビジョン策定直後から国家プロジェクトを相次いで受託することができ、最近の数年間はこのプロジェクト推進を主体に当フォーラムの活動が進められてきたこと、ベースとなる基幹活動はほとんど内容を変えていないこと、そして、初期の頃に活動していたグローバルな活動や標準化事業を最近は行っていないこと、が読み取れます。中でも国家プロジェクト受託事業は2012年度でいったんすべてが終了し、現在はそれらの成果普及活動（自主活動）を行っています。聞くところによれば、受託事業の隆盛期は、ある意味、当フォーラムの活動も活性化していたとのことですが、逆に、他の事業活動に新鮮さが欠けてきたような印象も受けます。現在では、国家プロジェクトの委託・受託環境も様変わりしており、以前にも増して困難な状況にあると認識しています。もちろん、受託事業はニーズと機会があれば是非実施したいと思っておりますが、過度にそれに依存すること無く、地味でも着実にガラス産業の発展に寄与できる活動

を目指したいとも考えています。今の時代を反映すべくグローバルな活動や基幹事業活動の活性化等、いわゆるニューグラスフォーラムの原点に回帰する活動を会員各位のご意見を反映させつつ、日本のガラス技術を世界に発信できるような活動をしていきたいと思っております。

ニューグラスフォーラム30周年にあたっての記事を記載できる機会に恵まれ、非常に短い私の経験の中で記述したため、結果として雑感になってしまいましたが、今後とも参画頂いている会員各位に満足頂けるような活動を目指して参りたいと思います。産・官・学各分野の方々の、なお一層のご支援・ご協力・ご指導を引き続き頂戴するとともに、ガラス産業連合会関係団体とも連携もより深めつつ、次の新たな10年先を目指して、活動を進めて参りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。